



大鹿村 三六災害から59年目

「伊那谷災害」とも呼ばれる三六災害は、昭和36年（1961年）6月24日から7月10日にかけての大雨による災害です。 **来年、令和3年（2021年）は長野県災害史上空前のものといわれている三六災害から60年目となります。**

三六災害の大きな特徴は、猛烈な土砂災害です。標高3,000m級の山々が連なる2つの山脈にはさまれた谷の中央を天竜川が流れる地形、そして脆弱な地質を持つ伊那谷に、一日で325mm（飯田測候所）の雨量を記録した集中豪雨が襲いました。このため、いたるところで、崖崩れや地すべりなどの土砂災害が発生しました。

大鹿村では大西山が大崩壊を起こし、崩落した大量の土砂が小渋川をせき止め、ついにはその流れを変えてしまいました。また、鹿塩川沿いでは各支川で大規模な地すべりと土石流が発生し、道路や橋は流失し、学校や家屋は埋め尽くされてしまいました。

【参考：一般社団法人 中部地域づくり協会 地域づくり技術研究所】

大鹿村 鹿塩地区

●土砂と流木で埋まった鹿塩小・中学校付近の鹿塩川（大栗）●



●一面土砂で覆い尽くされた鹿塩川（塩川との合流点）●



●土石流により全戸集団移住をよぎなくされた鹿塩北川集落●



大鹿村 大河原地区

●降り続いた豪雨により斜面が大崩落した大西山



●降り続いた豪雨により斜面が大崩落した大西山（下流側から）●



水害・土砂災害への日頃からの備え

水害・土砂災害が起きた時、あなたはどのように行動しますか？

- 個人** ●自分が避難する場所や、そこへたどり着くまでの安全なルートを思い浮かべることができますか？
- 地域** ●となり近所に住む人と普段からやりとりはありますか？協力し、助け合うことはできますか？

いざ、水害・土砂災害が起きたら…

- 個人** 自分や家族の命は自分で守る **そのために** まずは「逃げる！」
- 地域** 自分の地域は自分で守る **そのために** みんなで「助け合う！」

「いざ」という時に備えて

★考えるだけでなく、体験して実感することが大切です。

- 体験・実感することで…
- 考えるだけでなく五感をはたかせて得た経験は、よく身につきます。
 - 実際に災害に遭った時、素早く冷静に行動できます。

STEP.1 一人ひとりが災害への危機意識を持ちましょう。

- 個人** 例えば…
- 災害伝承座談会や現地見学会へ参加してみませんか？
 - 災害DVDの視聴をしてみませんか？

STEP.2 日頃からとなり近所の人たちと助け合う関係をつくりましょう。

- 地域** 例えば…
- 集落での防災マップづくりに参加してみませんか？
 - 防災訓練へ参加してみませんか？



新型コロナ

新型コロナウイルスについては、5月25日に緊急事態が終了した旨宣言されました。しかし、感染については引き続き対策が必要な状況です。

1. 三つの密の回避
2. 人と人との距離の確保
3. マスクの着用
4. 手洗いなどの手指衛生

お知らせ

6月29日は道の駅大鹿さんのご厚意によりトイレ前のいつも大鹿歌舞伎が映っているスクリーンで特別に三六災害関連のビデオを放映します。お立ち寄りの際にはぜひ見てみてください。